

# Leaders TOPICS

## 混迷の話題、思惑4題



生物部会長、エネルギー部会 吉田和史

### ■地球温暖化防止・・・皮肉の化石賞受賞

COP27(国連気候変動枠組条約)がエジプトで開催された。脱炭素で気温上昇を1.5℃に抑える目標は採めた挙げ句に容認した。援助を巡る綱引にも思える。

化石燃料事業への投資額が世界最大なのが理由なのか、日本は3年連続で NGO 化石賞受賞。火力発電でのCO<sub>2</sub> 排出ゼロ(100%回収)の技術貢献はスルーされる。ウクライナ紛争による深刻な燃料不足もあり 2022 年は過去最高の石炭消費となり、欧州は化石燃料の争奪に必死である。近年まれな大寒波の追い打ちでも、脱炭素は我が物顔が続く。

### ■クルマ社会・・・EV(電気自動車)一辺倒に変化

EV 車ブームが賑やかであるが、ここに来て EV 一辺倒に変化の兆しを感じる。7年前の頃は、燃料電池車 MIRAI が夢の脱炭素車で注目されていた。期待も大きかったが普及のハードルは高かった。そんな中、米テスラ車を筆頭に、EV 車が世界中でブームを起こしてきた。一方で、最近の米国ユーザー調査では断トツ人気は HV 日本車。政治的な思惑を横目に EV 車一辺倒は冷めている。期待は水素や窒素を燃料とする研究と実用化。まさかの水素エンジン車がガソリン車のライバルになる時代

が来るかもしれない。米欧中は密かに脱 EV 一辺倒の様相で、ユーザーにとっての選択肢が増えるかもしれない。

### ■自給率38%(カロリーベース)・・・「世界で最初に飢えるのは日本」(鈴木宣弘著)

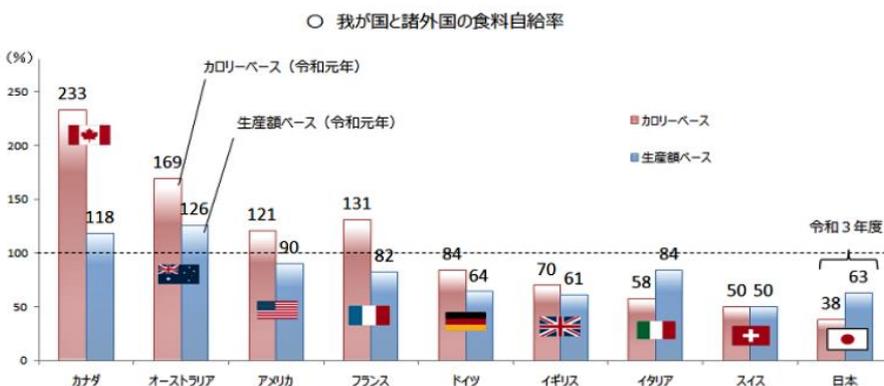
食料安全保障に関する本を読んだ。GDP3位の日本(国民一人当たりでは世界 27 位)には大切な忘れ物がある。国は防衛力強化という経済安全保障に投資しているが、生活を支える大切な食料自給が疎かで食料安全保障が危惧されている。戦後「米を食うとバカになる」と言われた時代に生き、小麦のパン食や麺類が当たり前になった反面、コメ作りの減反政策など農業復興は瀕死状態。その結果の食料自給率38%である。気候変動、戦争、疫病などは一日三食「イモ」時代を覚悟！というのには説得力がある。食料輸入はバーチャルウォーター輸入とも言われ、相手国の水資源を奪うという指摘もある。連作障害のない米づくりは収量の安定と水田による水源涵養効果、洪水防止になり、積極的な投資が次世代に財産を残す方法だと学んだ。自給率100%の社会だった鎖国の江戸時代にヒントがあると。

### ■明るい未来の予感・・・子どもは社会の鏡

少しだけ明るい未来が見える。たくさんの若い世代がスポーツやさまざまな分野で世界のトップで活躍してい

る。ものづくり国にも若者が挑戦している。復活の日々を期待したい。イギリスのことわざ「老いた犬に新しい芸を教えるのは難しい」を謙虚に受け止めつつ、老いた者にできる若者応援をしながら、日本の逆転大復活を楽しみたい。素顔の子どもたちの姿を早く見たい。2023年が日本の目覚めと反転の年でありたいと願うが、まだまだ油断できそうもない。

【世界の食料自給率】



資料：農林水産省「食料需給表」、FAO「Food Balance Sheets」等を基に農林水産省で試算。(アルコール類等は含まない)  
 注1：数値は暦年(日本のみ年度)。スイス(カロリーベース)及びイギリス(生産額ベース)については、各政府の公表値を掲載。  
 注2：畜産物及び加工品については、輸入飼料及び輸入原料を考慮して計算。

出典：農林水産省『世界の食料自給率』